

「知床・産業系列」の導入による本校のキャリア教育の充実

北海道斜里高等学校

校長 狩 野 康 弘

1 学校概要

(1) はじめに

本校は、昭和16年に斜里実科高等女学校として開校以来、幾多の変遷を経ながらも地域の高等教育を担い、地域はもとより全道・全国に多くの有為な人材を輩出してきたオホーツク東部・斜網地域の伝統校である。平成16年度には、それまでの普通科と商業科の併置校から道内8校目となる総合学科に学科転換し、生徒の多様な学びに対応する教育活動を進めてきた。平成25年度には学科転換後10年の節目を経過したが、少子化に起因する入学者数減少により、同年度入学生から間口減（3→2）となった。このことを契機として、学校の魅力をより高めることの必要性から、翌平成26年度入学生の教育課程から、系列変更によって新たに「知床・産業系列」を導入し、地域の関係機関や企業等と連携した「観光をはじめとする地域産業についての学習」を通して、生徒に、地域に貢献できる力やホスピタリティマインド（おもてなしの心）等を育み、地域の将来を担う人材を育成することを明確に打ち出すことで、総合学科教育の主軸としてのキャリア教育の充実を図っている。

(2) 学校教育目標（目指す生徒像）

- 確かな学力の育成
（自ら学びを見いだし、主体的に学ぶことができる生徒）
- 健康な心身と豊かな社会性の育成
（心身ともに健康で、豊かな社会性を身に付け、積極的に社会に参画できる生徒）
- 高い志と自己実現能力の育成
（高い目標を掲げ、その実現に向け真摯に努力を積み重ねることができる生徒）
- 深い郷土愛と国際的視野の育成
（グローバルな視点で地域の価値を理解し、誇りをもって地域に貢献できる生徒）

(3) 系列と特徴等

系 列	内 容
人 文	・ 人類文化に関する国語、地歴・公民、英語の学習が中心となる科目群 ・ 日本及び世界の言語、文化、歴史や地域の文化等について学習する。 ・ 文系の国公立私立大学・短大・専門学校等への進学に対応している。
自 然 科 学	・ 自然科学に関する数学・理科の学習が中心となる科目群 ・ 数の概念や数学における原理・法則、自然現象・環境について学習する。 ・ 理工系や看護・医療系の国公立私立大学・短大・専門学校等への進学に対応している。
情報ビジネス	・ 情報、会計、商業、コンピュータに関する学習が中心となる科目群 ・ 資格検定合格や技能取得を目標に、情報やビジネスについて学習する。 ・ 情報系の大学・専門学校等への進学、事務系就職等に対応している。
知 床 ・ 産 業	・ 世界自然遺産知床をはじめとする地域の自然環境、産業（観光・農業・漁業等）や歴史・文化、まちづくり等に関する学習が中心となる科目群 ・ 将来の持続発展に向け、地域に貢献できる力やホスピタリティ（おもてなし）のマインド（心）やスキルについて学習する。 ・ 観光系や保育・福祉系の大学・短大・専門学校等への進学、公務員や販売・接客系等の就職、自営（農業、漁業等）に対応している。

2 本校のキャリア教育

(1) 全体像

持続可能な勤労観・職業観の育成	各年次における取組		全体における取組
	1年次	○自己理解・地域理解・職業理解・社会認識等促進 ◇学校設定科目「産業社会と人間」 ◇職場体験学習(インターンシップ) ※生徒全員 ◇大学・職場見学 ◇キャリアガイダンス ◇知床自然体験学習 ◇史跡発掘体験学習 ◇HRにおける進路学習 ほか	○主体的な学び等の促進 ◇各教科・科目におけるアプローチ ◇特別活動(学校行事等)におけるアプローチ ・進路分野別説明会(ハローワーク等と連携して本校で開催) ・進路講話、出前授業 ・ユネスコフォーラム ◇課外活動等におけるアプローチ ◇キャリアカウンセリング ◇その他 ・学校外の説明会(就職、進学)の活用 ・オープンスクール等の活用
	2年次	○進路理解・主体的な学びの探究・社会認識等促進 ◇総合的な学習の時間①(希望分野別のゼミ形式) ※2・3年次混合 ◇職場体験学習(インターンシップ) ※希望生徒 ◇進路別学習(進学、就職) ◇キャリアガイダンス ◇各系列の授業(専門学習)におけるアプローチ ◇進路別HR ほか	
	3年次	○希望進路実現に向けた個々の主体的な学びの展開 ◇総合的な学習の時間①(希望分野別のゼミ形式) ※2・3年次混合 ◇総合的な学習の時間②(進路学習) ◇各系列の授業(専門学習)におけるアプローチ ◇進路別学習(進学、就職) ◇進路別HR ほか	ほか

(2) 学校設定科目「産業社会と人間」における取組

① R-CAP(自己診断テスト)の実施・結果を踏まえたアプローチ ・自己理解の一助とするために実施(「職業調べ学習」) ・「興味・関心」と「得意・自信」によるキャリアタイプ分類及び「職業探究マップ」を活用した自己分析を実施(担任等による面談、保護者も交えた三者面談等に活用)
② グループディスカッション(Group Discussion:GD) ・自分の意見を持ち、相手の意見を聞き入れ、自分の考えを深めることを目的に実施 ・与えられたテーマについて、設定時間内に小グループで話し合うワークショップ形式 テーマ例:「斜里町の良いところは」、「なぜ勉強するのか」、「携帯電話は必要か」、「なぜ時間は守らなくては行けないか」、「制服を着る意味は何か」 ほか
③ 職場体験学習(インターンシップ)準備・まとめ(報告書作成)・発表(報告会) ・1年次生全員対象、希望職種(公務員、製造、販売、事務等)毎に網走市内13事業所に分かれて職業(職場)体験、事前準備・マナー学習・報告書作成・報告会等実施
④ 自己紹介書の作成(自分と向き合い、自分自身についてしっかり考える) ・職場体験学習等で活用するための自己紹介書の作成を通じた自己理解の深化
⑤ 自分史(マイスクールライフプラン(MSLP)) ・自己理解、職業理解、上級学校理解等「産業社会と人間」での学習の集大成 ・自己の将来に向け自己と向き合い人生設計を立てる総合学科教育の根幹となる取組
⑥ マイスクールライフプラン(MSLP)発表会 ・1年次全員が各自のマイスクールライフプランを「産業社会と人間」の授業内で発表 ・1年次担当以外の教員も授業を参観、完成度の高い発表は学習成果発表会で発表
⑦ 総合学科学習成果発表会におけるマイライフプラン(MSLP)発表 ・町内公共施設(ゆめホール知床)で実施・広く保護者、中学生、町民等に公開 ・マイライフプラン(MSLP)のほか、総合的な学習の時間(希望分野別のゼミ形式)・学校設定科目「知床自然概論」・課題研究・高大連携授業等の学習(研究)成果を発表 ・地元中学校2年生全員をはじめ、多くの保護者、関係者、町民が来場

(3) 地域性を素材とした取組

学校のある斜里町は「世界自然遺産・知床」を擁する豊かな自然環境に恵まれた土地である。また、オホーツク海の豊かな水産資源の恩恵を受けた漁業と斜里平野での大規模畑作農業を展開する第一次産業の基地としても重要な地域である。

本校では、平成16年度の総合学科への学科転換を機に、地域の豊かな自然を教材とした特色ある教育活動（系列横断的な取組）として学校設定科目「知床自然概論」を設定し、「知床」が世界自然遺産に登録された平成17年度から授業を開始した。その後、特別活動として「知床自然体験学習」と「史跡発掘体験学習」、地域産業と連携した商業科目「課題研究」等を導入し、地域の教育力を活用した地域理解を促す教育に取り組んでいる。

これらの実施に当たっては、総合学科学校設定科目「産業社会と人間」や総合的な学習の時間ともあわせて、報告会等の発表機会を取り入れ、自ら考え、学び、伝え、行動する積極性や表現する能力の育成等、課題解決を目指している。

ア 系列横断的な取組

(7) 知床自然体験学習

「世界自然遺産・知床」をはじめとする地域の自然環境の素晴らしさと希少性、それらを継承・持続する責任と方策等の理解を促し、自然環境の保全や野生動物との共存、ワイズユース等について生徒に考えさせる教育活動として、1年次生全員を対象として実施している。本学習では、世界自然遺産内の原生林踏破（ガイドウォーク）や森林の生産量（CO₂吸収量）測定、シカ食害地の観察（森林の破壊、植物相の単一化）及び同地での森林回復（植樹）活動、河川でのサケ・マス遡上観察等のプログラムを生徒に体験させている。学習の実施に当たっては、斜里町、林野庁知床自然生態系保全センターの支援を受けている。



(4) 史跡発掘体験学習

本州・四国・九州とは異なる歴史・文化を持つ北海道の中でも、オホーツク管内は、縄文・続縄文文化やアイヌ文化の遺跡に加えて、「幻の海洋民族」と呼ばれるオホーツク人の文化（オホーツク文化、トビニタイ文化）の遺跡が数多く存在する特色のある地域である。本学習では、町内の遺跡発掘発現場（特に続縄文文化からオホーツク文化の遺跡）での見学（竪穴式住居跡や石器・土器・食餌残渣・人骨等の出土状況）及び発掘、斜里町立知床博物館での出土品の見学等のプログラムを生徒に体験させている。学習の実施に当たっては、斜里町・斜里町教育委員会・斜里町立知床博物館の全面的な支援を受けている。



イ 各系列の特色を生かした取組

平成26年度入学生の教育課程から、系列変更によって新たに導入した「知床・産業系列」では、それまでの福祉・保育や生活系の科目に加えて、地域の豊かな自然を生かした観光

に関わる科目を設定しており、平成27年度から関係の授業を開始した。

(7) 学校設定科目「知床自然概論」

知床が世界遺産に登録された平成17年から開始された「世界自然遺産・知床」を「生きた教科書」として学ぶ本校の特色ある学校設定科目で、地域の研究者やネイチャーガイド、役場の環境担当職員等の専門家を外部講師として招き、TT授業を展開している。授業の半分程度はフィールドワークや実習を取り入れ、実践的な学びとしている。授業の実施に当たっては、斜里町・斜里町教育委員会・斜里町立知床博物館、知床財団、東京農業大学（オホーツクキャンパス）等、多くの関係機関から支援を受けている。



(4) 学校設定科目「観光一般」・「観光情報」・「観光ビジネス基礎」

2年次で履修する観光関係の学校設定科目で、それぞれ、観光を学ぶ上で必要な接客マナーやサービス、観光に関わる情報の収集と発信、地域コーディネーターとしての視点からの観光経営等に関わる知識やスキルを身に付けるための授業を展開している。これらの授業では、講義形式だけではなく、主体的・協働的な学びの手法を多く取り入れ、生徒が積極的に学びを進める実践的な授業を行っている。授業の実施に当たっては、斜里町・斜里町教育委員会のほか、地元の産業団体や企業、大学から支援を受けている。

(5) 課題研究

生徒が自ら課題を設定して研究に取り組む授業で、地域の産業と連携した授業が展開されており、「斜里産小麦を使った料理メニューの開発」や「地域食材を生かしたスイーツの開発」等、地域の特色を生かしたプログラムが実施されている。授業の実施に当たっては、斜里町、地元の産業団体や企業から支援を受けている。

ウ ユネスコスクール（ESD）活動の推進

「知床自然体験学習」や「史跡発掘体験学習」、学校設定科目「知床自然概論」の取組をESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）の中心的実践として、平成23年1月、本校のユネスコスクール加盟が承認されている。平成27年度からは、文部科学省教育課程研究指定（ESD）を受け、これらの活動の成果を教科・科目をはじめとする学校の教育活動全体に波及させることを目指している。

(4) 成果と課題

ア 成果

- (7) 「産業社会と人間」を基に、総合学科におけるキャリア教育の充実が図られている。
- (4) 自営（農・漁業）希望者にも上級学校で職業の基礎となる知識・スキルを身に付けようとする姿勢が見られるなど、生徒にキャリア（みちすじ）意識が醸成されている。

イ 課題

- (7) 「職業」を意識するあまり、大学・短大での学びへの興味・関心よりも、短絡的に、専門学校での資格取得等を優先する傾向が見られる。